

かけはし

かけはし通信社
編集長 藤田明博
印刷部 藤田明博
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-10-1

生き残るために何をやる？

市立中央病院の経営問題を学び続けている十和田市民活動ネットワーク(山端政博代表)は2月9日、第2回目のフォーラムを開催した。



累積欠損金116億円
赤字ワースト26位

「普通の週刊東洋経済」を読みましたが、自治体病院の9割が赤字ですが、深刻な赤字経営全国のワースト26位が十和田市立中央病院です。平成28年度の純利益が74億円、当年赤字が10億円、累積欠損金が116億円です。原因として悪いのが市立三沢病院で欠損額54億円です。この対象は総収益10億円以上です。」「人口が毎年1000人ずつ減っていく社会ですから赤字も減っていく。医師の増員は30数万人もいるが、地域による偏りがあるし、不足する診療科はそのままで、病院や医師や看護士などの医療資源には限りがあるから、これを有効に使って、地域連携が欠かせない。」「それを国は県に求め、県は地域に求めているが、この地域で中央病院をどう位置付けるか、三沢との連携をどうするかを考えるのは、皆さんです。」

主催者「人口減社会を見越しては地域医療構想により『医療の連携を図れ』と言っている。中央病院の病床利用率は70%前後だがこれを割ると病床削減を求められる。そうすると赤字が膨らむ。この数年、山端正紀事務局長、丹野弘晃院長、接待課事務局長らが一生懸命努力している。中央病院を守るために私たちがサポートしなくてはならない。そのためには中央病院の現状がどうなのか、この先どうなるのか、何が問題でどんな解決策があるのか知ることが大事だ。この先も、いろいろな人の話を聞いて行きたいと思うている。ネットワークと一緒勉強しましょう。」



夏川千晶さん

「今日は長陰が来る予定だったがインフルエンザで降参があった。彼の代わりに3つの言葉をやる。」「まず一時借入金です。ちょっと借りるだけでいいイメージがあるが実はこれが厳しい。本来は半年年度で資金繰りが合うようにできていたが、どうして足りてない時に当年度の赤字で間に充てるのがこれだ。翌年返せば良いのだが、翌年返すには来年も借入から借りる。思い出して欲しい。中央病院は平成22年度に31億円投入して赤字をリセットした。特別支援はここが最後だよ」として、どこかで2023年度は2.9億円、28年度は3.1億円と続き、28年度には9.2億円にまで膨らんでいる。あの夕張市が財政破たんした大きな原因が夕張総合病院の赤字だった。病院事業は市の財政を左右する。十和田市は大丈夫ですか？」

「2つ目はメンタルヘルスです。この負担も大きいです。『精神科医療』『認知症医療』『糖尿病医療』の3つ区別医療的に割かきわめない。だから法令ではこの3つの区別をどう使っていくのかを位置付けている。メンタル部門を戻してはどうか。あるいはメンタル部門だけを指定管理にどうか。民間の病院にお預りするとかも有力な方法だ。民間のメンタル病院は黒字経営だからノウハウがある。」

「3つ目は経営形勢の見直しです。平成22年、経営改善に努めたがまだ出ていた結果は『労働組合が反省し全面的に協力を』と誓っている。これは他に別を

「今日は何をやる？」「まず一時借入金です。ちょっと借りるだけでいいイメージがあるが実はこれが厳しい。本来は半年年度で資金繰りが合うようにできていたが、どうして足りてない時に当年度の赤字で間に充てるのがこれだ。翌年返せば良いのだが、翌年返すには来年も借入から借りる。思い出して欲しい。中央病院は平成22年度に31億円投入して赤字をリセットした。特別支援はここが最後だよ」として、どこかで2023年度は2.9億円、28年度は3.1億円と続き、28年度には9.2億円にまで膨らんでいる。あの夕張市が財政破たんした大きな原因が夕張総合病院の赤字だった。病院事業は市の財政を左右する。十和田市は大丈夫ですか？」



佐藤俊男さん

「日本企業経営者は大抵さな名前だが(笑)、山形県酒田市にある、2つの病院が10年前に合併し独立行政法人化した。当時の人口12万人が今は10万人を切っている。地方の病院はともかく経営が大変だが先を見越して動かなきゃ生き残れない。経営形勢を変えるにはエンタープライズが重要だ、私には知識が出ない合意し切らぬ。」「2つの病院で928床あったが今は一般が646床で療養が114、合わせて760床だ。トボボウで撤退した業務の廃止を認めた結果、病床の回転率が上がり入院の競争が円滑になり、逆転も進んだ。関連する機関と地域医療連携ネットワークや地域医療連携法人を作ったが、それまでと比べて違う世界が見えてきた。病院は単独では成り立たない。」「非公務員型のトボボウとなれば、職員が強いのもいい。私たちが組合と正面から向き合い、ちゃんとした説明を受けた。このままの経営で存続できるのかを、お互いが正直に議論して結果、職員の理解を得ることが何より大事だ。」「一致しトボボウの道を断念することを決めた。職員の間でどうかが決まらずにトボボウに落ちた。」

「セントキでは事態の改善が出来ないことは明らかだ。予備簿があるとして、も財政課に相談する。人権がなくなったとしても人権を保護するから変わる。その点、トボボウは理事長の権限が強くなり、どうも決められなければならぬ。成果を出すためにも向かい合おう。権限と責任はセットだからやらざるを得ない。幹部も職員の同意を得て、このためなら、経営改善や職員の意向のアイディアをたくさん出して、経営が良くなり、強化すれば費用そのものが少なくなる。公務員型のセントキではそこがどうしても苦くなる。」



梅村建治さん 鳥越正義さん

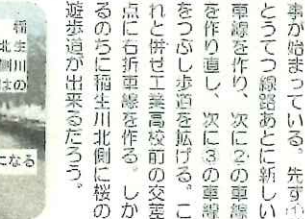
「平成19年と29年を比較してみると、医療収入は86億円から192億円に増え、2.3倍だ。当時2億6千万円の赤字だったのが今は9億4千万円の純利益だ。医師や研修医は10人増えた。だが人員費比率は59%から41%に下がった。入院患者の在院日数が7日から11日に短縮され、回転率が上がっている。3万9千円だった入院単価も6万8千円に下がっている。こういう状況だから全国から視察がやってくるし、それがモチベーションアップにつながっている。」

「経営は収入が増えることとよく改善する。経営が良くなることでドクターも楽になり好循環になる。それはトボボウの時代ではどうもできていない。現状をどう改善しないといけないか。見えるようにしないといけない。知恵と覚悟が必要ですね。」

「私たちには2つの病院を持つ。日本海総合病院は急性期型、646床、売上が201億円、1116人が働いており、日本海総合病院は急性期型、114床、12億円、112人が働いている。完全に役割を分けている。十和田中央病院は病床稼働率が70%で国の基準のギリギリだ。急性期型と慢性期型。メンタルは、どうも稼働率を上げるのかわからず、目出しなど連携の連携、目出しなど連携した方がいい。」



ヤナダの目 春がやってくる



三沢十和田線に 春がやってくる



カトリック幼稚園 思い出の園舎にさようなら

病院フォーラム 1面からの続きです



小嶋泰彦さん

建設費の負担は酷だ!

「8年前の運営審議会で長先生から『身の丈に合わない病院』と作られた。病院関係の資料を見た時に、栗谷義樹先生を知った。栗谷先生が、数表が分かりにくい。例えば、この規模の病院建設なら130億円で作るのが妥当だと160億円かかると。それならプラスアルファの30億円部分は病院経営とは別に考えるべきだ。その返済分まで病院の医療収益で賄えという話だ。そう、そういう意味で私たちが判断しやすい資料を用意してもらい議論したい。」



鳥越正美さん

強力なリーダーシップ

「病院が経営危機にあつたあの頃は議員の立場で打開策を模索し、日本海総合病院に視察に行き病院院長の栗谷義樹先生を知った。そこにいた女医さんが『栗谷先生だから私は付いていく』というのを聞き、すごい人なんだと思った。」



梅村建治さん

良いところも有るよ!

「平成15年から業務課長で、17年から医事課長を務めたが、この17年に産科医が東北大に戻り医療収入がガクッと下がった。20年の新病院オープン時から事務局長になった。これに合わせた電子カルテ化に踏み切った。この医事はパソコンで打たない。医事課のスタッフの手と足とりサポートし、本来の医事業務が出てくる。そこで患者の受け入れを4月は30%、5月は20%減らす作戦をとったので収入は減った。」

小嶋さん・十和田市医師会会長

鳥越さん・元病院経営審議会委員

梅村さん・元中央病院事務局長



熱心に意見を交わすパネラー

「中央病院には多額の債務があるが、ドブボウ化への足かせにはならないと思う。要は、本気でやるか。その気になるかだが、私は本格的に進めたい。」

受け持たないって何なんだと思う。医療収支とは別に考えるべきだ。」「事務局長を5年やって辞めた直後に院長が緩和ケアをやっちゃった。医師が2名とスタッフで20名必要なので割合わない。緩和ケアもメンタルも報酬が一般診療の2分の1だ。」

「病院の連携にも取り組んだが、十和田を軸にした話は三沢からは拒否されたし、七戸も乗ってこなかった。みんな自分のまわりの病院を無くしたくない。」

「私の大きな役割は医師確保だったので、土日も惜しんで奔走した。市長が出向いたから医者が来るわけでは無い。医師はひっぱりだかだから1人入れるにも骨が折れる。京都からちょっと遊びに来た医師をつかまえて説得する。そのため経費なんか出ない。それで7人入れた。産科医も入れたが部長と合わずに去っていった。」

梅村II病棟のスタッフは笑顔で迎えることに努力している。いい場面を見たら褒めてあげよう。悪い医者は追い出そう。」

もし建設費が身の丈だったら

Table with 4 columns: 1. 1面と3面で病院フォーラムを特集した、3人のパネリストは揃って「身の丈に合わない病院建設費が負担になっているのだから、それを別にして経営数値を見直すべきだ」と主張した。 2. 毎年の決算書で純損失が1億円だったら病院経営はまあまあだということになる。 3. 毎年の決算書で純損失が1億円だったら病院経営はまあまあだということになる。 4. 毎年の決算書で純損失が1億円だったら病院経営はまあまあだということになる。

Bottom section containing various local business advertisements including 香屋会館, 経商事株式会社, 新野建設株式会社, 十和田第一病院, 高松病院, and 小嶋外科胃腸科医院.